



子どもは、日々成長しています。日常生活における実体験の一つひとつが、その成長につながります。

そして、読書は子どもたちにとってかけがえのない体験です。日常では体験できない世界が、そこに無限に広がっているからです。

物語の中では、登場人物の数だけ数多の人生にふれることができます。そして、彼らと一緒に物事を考え、判断し、創造し、喜びや悲しみなど様々な感情を共有します。

また、歴史の本を開いて先人の生き様や功績にふれ、地理の本で世界中の未知の場所を訪れ、芸術の本で作品の美や作者の心象にふれ、科学や技術の本で様々な知識や技能を吸収することができます。

このような読書の体験は、心の成長期にある子どもたちにとって、計り知れない意義を持っています。そして、可能な限り子どもたちに読書に親しむ場所と機会を提供することは、私たち大人の務めであると考えます。

本市では、平成18年3月に「市原市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたちの読書活動に資する様々な取組を実施してきましたが、それらの成果を検証し課題を抽出して、本市における子どもの読書活動をより効果的に推進することを目的として、この度、「市原市子ども読書活動推進計画（第二次）」を策定いたしました。

本計画を基として、市原の子ども一人ひとりが、自ら読書の楽しさ、素晴らしさを発見し、「生きる力」がはぐくまれるよう、また、いつでもどこでも読書ができるよう、一層の環境整備を図ってまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をお寄せいただきました市民の皆様、ご尽力・ご協力をいただきました関係者の皆様に、心から感謝を申し上げます。

平成23年1月

市原市長 **佐久間 隆義**